

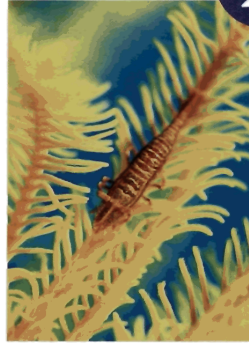
# エビ・カニ

Shrimps and Crabs of Kume Island, Okinawa

# ガイドブック

沖縄・久米島の海から

2



川本剛志／  
奥野淳兒

*KAWAMOTO Tsuyoshi*  
& *OKUNO Junji*



● character

ウミシダ類と共生する。はさみ脚は歩脚に比べて太く、頭胸甲よりも長い。額角は大きく、細長い二等辺三角形。宿主によって色彩が大きく異なり、背中に沿って白く、幅の広い縦帯をもつものや、全身赤味の強いものなど、様々。体長2cmほどになる。紀伊半島以南の南日本を含むインド・西太平洋に広く分布する。伊豆半島など、暖温帯域に産するものとは別種の可能性が高い。

● observation

色彩変異が多く、とても楽しい種です。ウミシダの根元付近の巻枝部分を拠点にしている、小さな個体は羽枝に隠れています。宿主に合わせて体色や模様を決め、宿主が変わるようなことがあれば、新たな宿主に合わせて体色をゆっくり変化させているようです。そのためか、同じ宿主にも2パターンの体色や模様の個体がいることもしばしばです。以前、息子に見せたら、「家を持って帰る！」とききませんでした。もちろん、そっと元の場所に戻しておきました。

コマチコシオリエビ

*Allogalathea elegans* (Adams and White, 1848)

Location:カスミポイント  
Depth:-10m  
Length:1.5cm

左:単色のウミシダに単色の個体がいた。水深-15m 1.5cm  
右上:ペアでも微妙に色が異なる。水深-10m 1.5cm  
右下:珍しい体色の個体。水深-15m 1cm





### ホクロコシオリエビ<sup>♂</sup> (新種)

*Galathea affinis* Ortmann, 1892

Location:アーラ

Depth:-10m

Length:0.8cm

#### ● character

はさみ脚は歩脚に比べて太く、頭胸甲よりも長い。その表面には大きな棘が縦に並ぶ。全体的にくすんだ緑褐色で、頭胸甲の溝は青白い横縞に見える。額角は短い。はさみの指部のつけ根に黒い斑紋をもつことが、本種の特徴のひとつである。体長1.5cmほどになる。奄美大島以南の琉球列島を含むインド・西太平洋に広く分布する。琉球列島の浅海では普通に見られる種類。

#### ● observation

潮通しのよい外海の浅場や、やや深めのガレ場の転石下やサンゴ礫の隙間に生息しています。アマミコシオリエビ同様ポピュラーな種類ですが、石をはぐるときに、すぐその裏側や別の転石下に隠れてしまい、観察しづらいのが難点です。



### アマミコシオリエビ

*Galathea amamiensis* Miyake and Baba, 1966

Location:アーラ

Depth:-10m

Length:0.8cm

#### ● character

はさみ脚は歩脚に比べて太く、頭胸甲よりも長い。その表面には大きな棘が縦に並び、先端部は赤味が強い。額角は短い。全体的に淡褐色で、頭胸甲の中央に一对のくすんだオレンジ色の斑紋がある。頭胸甲の溝は青い横縞に見える。体長1.5cmほどになる。奄美大島以南の琉球列島を含むインド・西太平洋に広く分布する。和名と学名の種小名は初めて発見された奄美大島にちなんだもの。

#### ● observation

潮通しのいいガレ場の転石下やサンゴ礫の隙間に生息します。生息環境によって色彩に濃淡があります。岩をゆっくりはぐると動き出すので、その行き先をじっくり探っていけば、そのうち観察しやすい場所になることもありますか。がんばって見てください。



## ● character

ウミシダ類と共生する。同じくウミシダ類を宿主とするコマチコシオリエビの色彩が多様であるため、色による区別は難しいが、本種のほうが額角が短く、両脇の歯が大きい。また、本種の色彩は安定しており、頭胸甲では地色が黒く、乳白色の二本の縦縞が走っている。体長1.5cmほどになる。八丈島以南の南日本から東南アジアにかけて分布する。

## ● observation

腕の少ないウミシダの根元の部分にペアで生息しています。観察する際には、岩礁をがっちりつかんでいるウミシダの巻枝部分を切ったりしないよう注意しながら、ゆっくり素手ではがしてひっくり返してください。はさみ脚を突き出して威嚇している彼らに出会えるはずですよ。



## フタスジウミシダコシオリエビ

*Galathea inflata* Potts, 1915

Location: イマズニ

Depth: -8m

Length: 1.2cm

## ● character

大型のカイメン類の体表面で見られることが多い。はさみ脚は歩脚に比べて太く、頭胸甲よりも長い。全体的に赤褐色で、透明感がある。はさみの指部のつけ根と切断縁が鮮やかな白色を呈し、先端部は紫色を帯びている。体長1.5cmほどになる。八丈島以南の南日本を含むインド・西太平洋に広く分布する。頭胸甲には目立った模様はないが、はさみの色彩で近似種から識別できる。

## ● observation

カイメン類の隙間や、潮通しのいいガレ場の転石やサンゴ礁の下に生息しています。今回、学名が判明しただけでなく、め得太く和名までつきました。ただ、一定の場所に落ち着くまで、とにかくやたらと動き回るので、観察には一にも二にも根気が大切です。



## スジテコシオリエビ (新称)

*Galathea spinosirostris* Dana, 1852

Location: トンバラザシ

Depth: -10m

Length: 0.8cm





### ミヤビチュウコシオリエビ (新称)

*Munida kawamotoi* Osawa and Okuno, 2002

Location: トンバラザシ

Depth: -25m

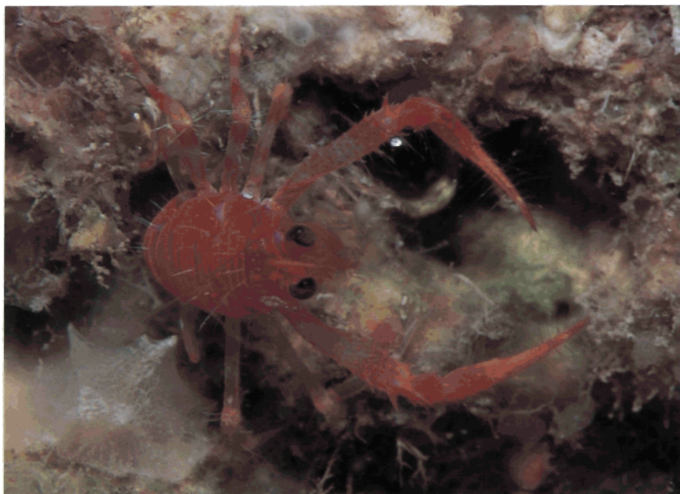
Length: 1cm

#### ● character

はさみ脚は歩脚に比べて太く、頭胸甲よりも長い。頭胸甲は朱色で、部分的に青味を帯びる。はさみ脚や歩脚は透明感のある淡褐色で、はさみの指部には切斷縁に沿って赤い筋が走る。体長1.5cmほどになる。本書の取材中に共著者の川本氏が初めて発見した種類であるため、氏の名前を学名にいただいた。今のところ、久米島のみで分布が確認されている。

#### ● observation

潮通しのよい外海のドロップオフの壁にある穴で発見しました。その穴の2cmくらいの亀裂に入り込んで、はさみ脚と頭胸甲を出しています。2002年に新種として論文発表され、めでたく今回和名がつけました。学名に自分の名前がついたりすると、妙に照れるので、学名ではあまり呼ばません。



### クメジマチュウコシオリエビ (新称)

*Munida leptosyne* Macpherson, 1994

Location: トンバラザシ

Depth: -25m

Length: 1cm

#### ● character

はさみ脚は歩脚に比べて太く、頭胸甲よりも長い。全体的に鮮やかなオレンジ色。歩脚は透明感があり、関節部分は黄色くなっている。体長1.5cmほどになる。久米島と南太平洋のロアヨーテ諸島、チェスターフィールド諸島のみで分布が確認されている。アナモリチュウコシオリエビに似ているが、本種でははさみ脚が全体的に赤く、より細いことなどによって区別できる。

#### ● observation

ミヤビチュウコシオリエビと同じような環境に生息します。初めは、アナモリチュウコシオリエビかと思っていましたが、色彩が微妙に違うし、はさみ脚の指部の長さは本種のほうが長い。そこで、奥野さんに同定をお願いしたところ、別種と判明。しかも日本初記録種で、今回めでたく和名もつけました。

## ● character

はさみ脚は黄色く、部分的に赤い斑紋があり、前2種に比べて太い。頭胸甲は鮮やかな朱色で、部分的に黄色い模様がある。歩脚は赤味を帯びた透明で、関節部分は黄色い。体長1.5cmほどになる。紀伊半島以南の南日本を含む西部太平洋に分布する。最近和名が提唱された種類で、沖縄では岩壁の穴から顔を出す姿がしばしば撮影される。

## ● observation

僕が子どものころに放映されていたロボットのキャラクターの名でダイバーに親しまれてきた本種は、潮通しのいい外海のサンゴ礁域に生息します。水深5mほどの浅場から、40mくらいの深場まで幅広い水深で見られます。真正面からこの子を見つめると、童心に戻ってしまう僕がいます。



## アナモリチュウコシオリエビ

*Munida olivariae* Macpherson, 1994

Location: イマズニ

Depth: -10m

Length: 1.2cm

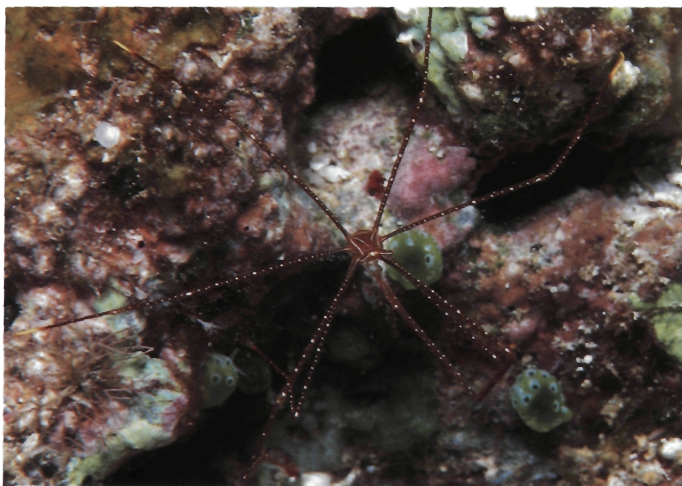
## ワラエビ科 Chirostylidae

## ● character

ウミカラマツ類と共生する。関東地方以南のダイビングスポットでよく見られるオルトマンワラエビ(*C. ortmanni*)の近似種。本種のほうがはさみ脚や歩脚にある白色点が大きく、数も多い。現在、分類学的研究が進められている。幅5cmほどになる。沖縄本島と久米島、西表島で分布が確認されているが、琉球列島のその他の島にも広く分布しているものと思われる。

## ● observation

潮通しのいい外海のサンゴ礁域に生息するウミカラマツ類、クロサンゴ類、イソバナ類、ヤギ類などを宿主としています。動き方が酔っ払いの千鳥足風で、ときおりゆらゆらしながら歩く姿が愛らしい。いつか、すてきな和名がつくといいですね。



## ワラエビ属の一種

*Chirostylus* sp.

Location: シチューーガマ

Depth: -15m

Length: 1cm





### クダヤギクモエビ

*Uroptychus kudayagi* Miyake, 1961

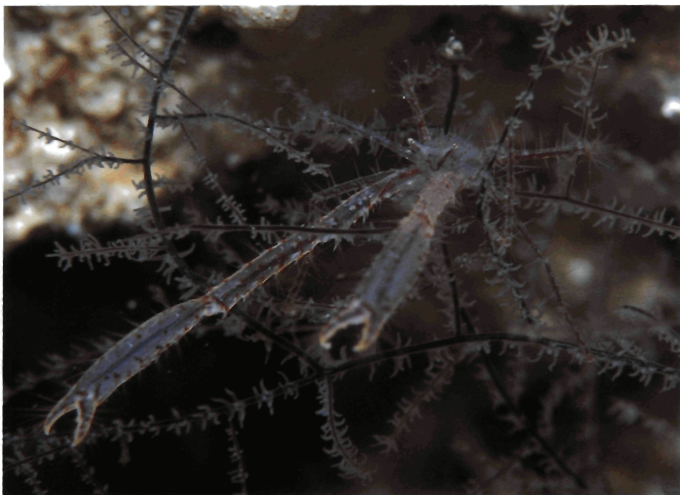
Location: 堂崎  
Depth: -20m  
Length: 0.8cm

#### ● character

クダヤギ類を宿主とするため、この名がある。頭胸甲に比べてはさみ脚や歩脚が極めて長い。全体的に透明感のある白色で、額角や眼などの“顔”の部分とはさみ脚の関節部分のみ赤紫色。体長2cmほどになる。従来は、相模湾から天草諸島までの南日本暖温帯域からしか知られていなかったが、今回琉球列島にも分布していることが明らかになった。

#### ● observation

潮通しのいい外海のニクイロクダヤギにペアで生息します。宿主の幹の枝分かれする根元部分に隠れており、体の模様も宿主に合っています。とても見つけづらいのですが、根元部分にライトを当てゆっくり探していくと、色鮮やかな彼らが見えてくるはずですよ。



### クモエビ属の一種

*Uroptychus* sp.

Location: 小学校沖  
Depth: -30m  
Length: 0.8cm

#### ● character

ウミカラマツの仲間と共生する。頭胸甲に比べてはさみ脚や歩脚が極めて長く、はさみ脚と歩脚には長い毛を備えている。全体的に透明感のある白色で、褐色の点が散在する。体長3cmほどになる。本種は未記載種と思われる。従来知られていたクモエビ類の多くは深海域のもので、ダイバーが潜水する水深帯にはどのような種が存在するのかは今後明らかにされていくだろう。

#### ● observation

潮通しのいい外海のドロップオフの壁にできたオーバーハング上部のクロサンゴの仲間を宿主として生息します。稀種ですし、宿主に対する体色の見事な溶け込み具合でとても見つけづらいのですが、あくなきチャレンジ精神で「いつかはきっと……！」と、信じてがんばってください。